特集　オリジナルネギ「兵庫N-1号」（ひょうごエヌワン®）！

「兵庫N-1号」（ひょうごエヌワン®）の秋から冬にかけた品質特性の変化

10月～1月にかけて「兵庫N-1号」の品質を調査した。10月末に水分含量、粘性物質量が多く、その後、減少した。葉鞘（しょう）の還元糖（果糖＋ブドウ糖）含量は11月下旬まで一定で推移した。1月には生葉数、水分含量、粘性物質量及び還元糖が減少した。

内　容

令和7年に一般栽培が始まった県育成ネギ品種「兵庫N-1号」の品質特性を明らかにするため、令和6年に当センターで慣行作型（5/13播（は）種、7/5定植）により栽培調査した。10/9～1/15の9回(図1)収穫し、全重、生葉数を調査後、葉身3枚程度に調製し成分分析を行った。

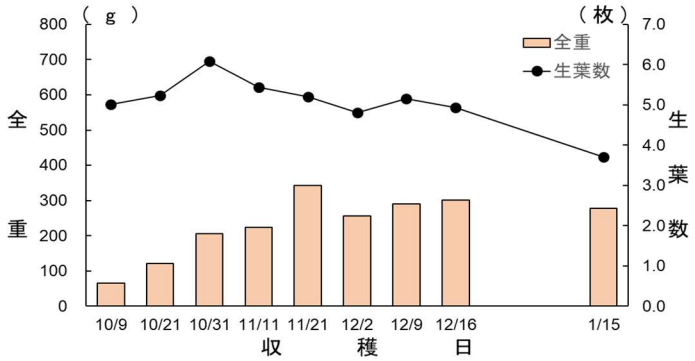

図1 収穫時期の違いが全重および生葉数に及ぼす影響

その結果、全重は11/21に約350gまで増加し、以降は差がなかった。生葉数は12/16まで5～6枚で推移し、1/15に減少した(図1)。水分含量は葉鞘、葉身とも10/31まで同等で、以降は減少する傾向だった(図2)。葉身に生じる粘性物質量は10/31に急激に増加し、その後減少した。葉鞘の糖成分では、11/21まではほぼ一定だった還元糖含量がそれ以降、緩やかに減少し、逆にショ糖含量は11/21以降、緩やかに増加する傾向がみられ、1/15には両者はほぼ同量となった。葉身では12/16まで還元糖含量は緩やかに増加し、ショ糖含量はほぼ一定で推移したが、1/15には還元糖含量が少し減少し、ショ糖含量が増加した（図3)。

以上より、全重は11月下旬まで増加し、生葉数は1月中旬に減少した。水分含量、粘性物質量は10月末に多く、その後、1月中旬まで減少した。葉鞘の 還元糖は11月下旬から1月にかけて減少し、ショ糖は11月下旬以降漸増した。

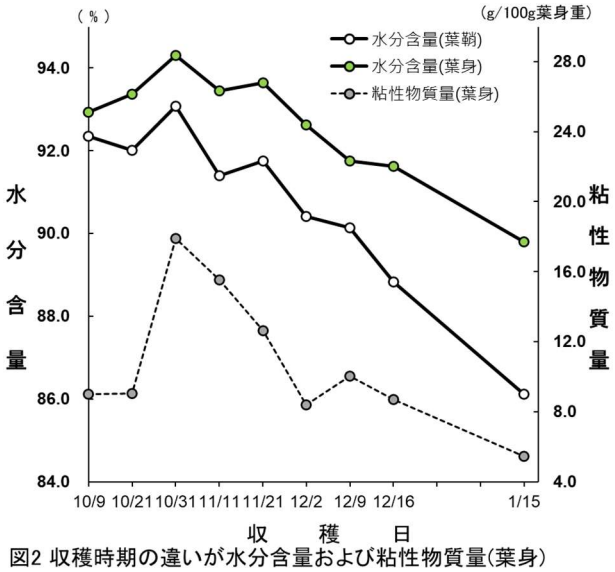

図2 収穫時期の違いが水分含量および粘性物質量(葉身)に及ぼす影響

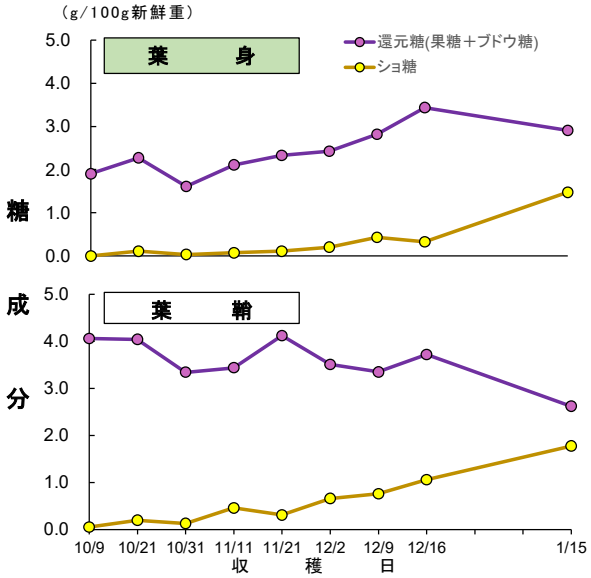

図3 収穫時期の違いが糖成分に及ぼす影響

今後の方針

「兵庫N-1号」の作期・作型と12月以降に収穫した場合の品質特性について調査する。

木下　歩（北部　農業・加工流通部）